

研究・調査報告書

報告書番号	担当
258	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳) Characteristics of women who binge drink before and after they become aware of their pregnancy. 妊娠に気づく前と後で大量飲酒する女性の特性について	
執筆者 Strandberg-Larsen K, Rod Nielsen N, Nybo Andersen AM, Olsen J, Grønbaek M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Eur J Epidemiol.2008; 23: 565-572.	
キーワード binge drinking, pregnant women, before and after recognition of pregnancy, social characteristics 大量飲酒、妊婦、妊娠に気がつく前後、社会的特性	
要旨 目的： 1 回に大量飲酒することは胎児の発達や妊婦にとって有害である可能性があり、そのような行為を避けることが妊娠中には薦められている。我々はデンマークの女性を対象に、妊娠に気づく前と気づいた後で大量飲酒する人の社会的特性の違いについて検討する。 方法： 1996-2002 年の間に約 10 万人の妊婦が Danish National Birth Cohort に登録された。大量飲酒に関する情報、妊娠に気がついた時期、年齢、妊娠歴、婚姻状態、喫煙、職業に関する項目、妊娠時の BMI、妊娠前の飲酒状況、精神障害についての情報を得られた 85,334 人を対象とした。 結果： 4 分の 1 近くの女性が妊娠期間中少なくとも 1 回大量飲酒をし、彼女らの大半が妊娠に気づく前に大量飲酒していた。妊娠前の 1 週間での飲酒量、夫がいないこと、喫煙していることは、妊娠に気づく前、気づいた後どちらにおいても大量飲酒を予測する因子であった。加えて、妊娠に気づく前の大量飲酒は、25-29 歳であること、未産婦であること、高等な職業についたり職業上ベテランであったりと教育歴の高い人でおこることが多かった。妊娠に気づいた後の大量飲酒は、子供が欲しくて妊娠したのではないケース、仕事上ベテランはない経産婦、1 年以上職についていない人、精神神経障害をもった人の中で多くみられた。 結論： 妊娠中の大量飲酒を避けるために、保健事業者は妊婦だけでなくこれから妊娠しようとしている人もターゲットに保健事業を行うよう努めるべきである。また妊娠に気づく前に大量飲酒する人と、妊娠に気づいた後で大量飲酒する人では、社会的特性が異なることを認識することが必要である。	